

# 連載「巣づくりの住まい」vol. 6

建築学科 准教授 石川恒夫

上毛 平成21年12月16日（水）

## 巣づくりの住まい

6

石川 恒夫

わたしたちは手で「もの」をつかみ、皮膚を通して外界の「もの」を感知します。そうした感覚は、多様な刺激を必要としているので、一本調子や極端に偏っているのは、実はとても退屈なことなのです。わたしたちは外界に対して、振り子のように揺れ動きながら反応しているといつてもよいでしょう。生き生きとしたリズムが生命を支えているのです。

現代世界は光（視覚）や音（聴覚）などによる刺激が過剰です。場合によっては暴力的な刺激から繊細な魂を守るために思わず耳をふさぎ、目をつぶることも多いのではないのでしょうか。反対に、

## 床材選び 触感が大切



### 繊細な心地良さ楽しむ

上げなど、建築に使う素材のほんの繊細な違いに

気がつくことも可能です。自然素材は生きた存在です。すから、決して均質ではありません。人間が均一ではありません。その成り立ちや仕組みは、自然

の要請に応じたもので知られています。触れたいときの温かさや弾力性は床材選択の際の大切な判断基準です。さらさらしたココヤシ繊維やサイザル麻。角張った御影石や切り出した石灰岩。かんなを掛けたスギやヒノキの無垢板。平滑なコルクシートやリノリウム。

柔らかい羊毛カーペット。自然素材には何と多様な「もの」の世界が広がり、

### 「エコ園舎」構造見学会

20日に高崎 環境に負荷をかけない「エコ園舎」として、高崎市剣崎町に建築中の八幡幼稚園の構造見学会が20日開かれる。

草の上を歩きつつ、世界と出会うことのできる人間の素朴らしさを語っています。身体の快適性や空間感情にとって、特

に床材選択の意義は大きいでしょう。足元から床へ熱が逃げ

るの不快です。硬い床材による足腰の疲れもよく、省エネ住宅は何の役に立つのでしょうか。

多様な素材の体験を（左は3センチ厚の杉材、右は土ブロック）

（前橋工科大学大学院 准教授）

延べ床面積約700平方メートル。今年10月に着工し、来春完成の予定。設計はビオ・ハウス・ジャパン一級建築士事務所（石川恒夫代表）。

見学会は午前11時と午後2時の2回。参加希望者は18日まで、同事務所（☎027・212・3880）へ申し込む。

県産材を利用して建築中の八幡幼稚園

